

東北大学百年史編纂室に関する個人資料の紹介・続 スタッフ会議資料に見る編纂作業の経緯と実態

伊藤大介

はじめに

本論考は、執筆者が保管していた東北大学百年史編纂室に関する資料紹介の続編である。

『東北大学史料館研究報告』第16号(2021年)に「東北大学百年史編纂室に関する個人資料の紹介」として掲載された論考では、資料の全体像について紹介した。続編である今回は、編纂室で開催されていたスタッフ会議に関する資料(資料番号1～3)の内容について、より詳しく検討を加えることとする。

スタッフ会議とは、編纂室のメンバーが月に1回のペースで開催していた会議のことである。今回紹介するのは、執筆者が教育研究支援者として加わった2007年(平成19)5月から、編纂事業が終了する2010年(平成22)3月までに開催されたスタッフ会議の資料である¹⁾。なおこれらの資料は、執筆者個人が保存・管理していたものであるため、個人的な都合などにより、一部の資料が欠けている可能性も否定できない。

本論考では、執筆者が編纂室に在籍していた約3年分のスタッフ会議に関する資料について紹介する。まず資料について基本的な説明を加えた上で、そこからわかることについて論述していく。

1. スタッフ会議資料について

スタッフ会議資料は、月に1回開催されるスタッフ会議で配付された資料をまとめたものである。当時は封筒に入れて保管していたが、史料館に資料を寄贈するのの際して、年度ごとに紙ファイルに綴じて3点の資料とした。その詳細については、表1から表3として本論考の末尾に掲載している。

この表には資料に書かれているタイトルを記録し、タイトルがない場合は内容から考えられるタイトルを〔 〕内に記した。そのほか、日付や作成者が記されている場合は、そのデータも記録した。なお資料の「作成者」については、資料の書式や書かれている内容から推測できるものもあったが、資料上に明記されている場合のみ記した。

スタッフ会議資料の基本的な構成は、以下のように分類できる。

- ①事務報告書
- ②会議次第書
- ③各チームからの報告
- ④スタッフ会議以外の資料

ここからは、この分類に従って、それぞれの内容について紹介する。

①事務報告書

これは「スタッフ会議」とタイトルが付けられている資料で、佐藤正博事務補佐員、2008年度からは星勝利事務補佐員(いずれも当時の肩書)が作成した事務的な報告書である。画像1にあるように、「日時・場所」「会議関係」「来訪者」「図書等の寄贈」「図書の購入」「出張関係」

「庶務関係」について記されており、編纂室の基本的な動きを確認することができる。

そのほか2007年度には「百年史編纂室予算執行状況」に関する資料と一緒に付けられる場合もあったが、2008年度以降は見られなくなる。

②会議次第書

これは「月例スタッフ会議」とタイトルが付けられている資料で、中川学講師（当時）が作成していたと考えられる。「報告事項」と「協議事項」に分けられており、基本的には、その構成に沿って会議が進められた。

参加メンバーが、前月の業務内容などを報告した上で、「協議」すべき事項に関して話し合いが行われた。

たとえば2007年7月11日の資料によると、「1、通史1について」「2、通史2について」「3、資料4について」「4、7月の業務内容について」「5、その他」と項目が立てられている。

また、編纂事業が終了する直前の2010年2月15日の資料では、「1、通史3」「2、正誤表」「3、資料整理作業」「4、編纂の記録」「5、ニュース最終号」「6、2月の業務内容について」「7、その他」という構成になっており、資料の整理や記録の作成など、業務を閉じるための作業が進められていたことがわかる。

この次第書は、項目と項目の間にスペースが確保されており、参加者がメモを取ることが前提となっていたことがうかがえる。そのため、ほかの資料にも当時の書き込みが残されているが、この資料にはとくに多くの書き込みが見られる。

③各チームからの報告

これは、たとえば通史1の「進行表」、通史2の「リライト・点検分担表」、通史3の「章節構成案」のように、編纂室内に設けられたチームそれぞれが担当する巻の作業について、報告や協議をするために作成された資料である。

これらの資料には「通史1」や「通史2」といった、それぞれの巻の作業経過が記録されている。「進行表」には原稿提出や入稿のスケジュールについて、「リライト・点検分担表」には原稿のリライト（書き直し）や点検に関する分担について、「章節構成案」のような資料には巻の構成に関する試案や現状について記されており、編纂事業の根本を知ることができる資料といえる。

また「管理運営検討委員会の経過」「5編2章：分校の統合と教養部の設置」「統計編メモ」のように、それぞれの部分を執筆や担当する上で各メンバーが調べた内容や、備忘のために書

ス タ ッ プ 会 議	
〔左欄(正)〕	
日時・場所：平成19年 6月13日(水) 15:00～ 於・事務室 1	
1 会議関係	なし
2 来訪者	5月29日(火) 15:00～16:00 平川 新教授(東北ア) 資料閲覧
3 図書等の寄贈	法政大学 大学史資料集 第28集 " 大学史編纂室ニュース Vol.1 No.4 東北大学生のための情報探索の基礎知識 一基本編一 2007 " " 一人文社会科学編一 2007 " " 一自然科学編一 2005 " " 一自然科学編・英語版一 2007 京都大学大学文書館 『学友会関係資料』解説・目録 " 京都大学大学文書館だより 第12号 桃山学院大学史料室 桃山学院年史紀要 第26号 " 桃山学院の歴史 一大学開学50周年に向けて一 2007
4 図書の購入	北海民論社 第二版 北海道人名辞書
5 出張関係	なし
6 庶務関係	(1) 平成19年度職員一般定原健康診断 …… 本部事務機構：7月5日(木)と6日(金)に、金研2号館前で実施するので、都合の良い日に受診してください。 (2) 平成19年度百年史編纂室4月～5月の予算執行状況について(配布資料あり)

画像1 事務報告書(2007年6月13日)

き残したものを提示している場合もある。これらの資料も、それぞれの巻を編集していく上で必要な情報をまとめた重要な資料である。

そのほか、「編集作業上の留意点などについて」や「校正などに関する審議事項」のように、各巻の表記や「校正」について話し合うための資料や、「通史3 年表サンプル案」や資料4のサンプルのように、これから作成する部分のサンプルを提示している資料などが含まれている。いずれも本作りを進めていく上で欠かせない部分であり、それらの資料の存在からも、スタッフ会議が大きな役割を果たしていたことがわかる。

④スタッフ会議以外の資料

これらの資料は、スタッフ会議資料と一緒に管理されていたが、スタッフ会議とは異なる会議で配付されたものである。

その1つは、2008年2月5日に開催された第7回通史専門委員会部会長会議の会議資料である。これは通史の部会長たちによる会議で、残された資料から「百年史の現状」について報告されたほか、「刊行計画の変更について」「通史2の進捗状況について」「通史3について」「資料3について」話し合われたことがわかる。

もう1つは、2008年6月19日に開催された「通史2スタッフ会議」の資料である。この会議は、通史2に関係する室員だけが参加して開催された会議である。この年のスタッフ会議は、6月に開催されなかったこともあって、編纂作業中であった通史2について、関係するスタッフが集まって打合せを実施したことがわかる。

これら2つの会議資料がスタッフ会議資料とともに管理されていたのは、スタッフ会議と同じような位置づけの会議と判断して、一緒に扱っていたためである。また「通史2スタッフ会議」のような個別の巻に関する会議は、ほかの巻についても開催されていた可能性もあるが、詳細は不明である。

2. スタッフ会議資料からわかること

ここからは、スタッフ会議資料からわかることについて述べていく。

まず表1から表3を見ると明らかなように、スタッフ会議資料を見ることによって、編纂室のスケジュールを把握することができる。編纂室の基本的な経緯については、通史3の巻末に掲載されている「編集後記」に記されているほか、『東北大学百年史編纂室ニュース』などに詳細な記録が掲載されている²⁾。

しかし、たとえば『東北大学百年史編纂室ニュース』の「百年史編纂事業の経過」には、教員の資料調査やスタッフ会議の開催日が掲載されているものの、①の事務報告書に記されている、関係する教員の動向、大学のイベント予定、図書の寄贈や購入、というような細かい情報は記載されていない。

また②会議次第書や③各チームからの報告を見ることによって、編纂事業そのものの経過を知ることができる。それぞれの巻を編集していた時期を把握できるだけでなく、原稿の進捗状況や、印刷会社（笹氣出版印刷株式会社）とゲラをやり取りする様子も確認できる。

画像2は、2009年12月16日の会議で配付された通史3「進行表」の一部である。そこには編名や章名、執筆者や校訂の担当者のほか、印刷会社に入稿した日付、執筆者にゲラを送付した日

編	章	筆担	本文 頁数	編纂 担当者	校訂		入稿		初校		再校		最終校		出張校正	
					校訂 担当者	校訂 著者戻	筆 気へ	編纂 室	著者戻	筆 気へ	編纂 室	筆 気へ	編纂 室	(チェック2回)		筆 気へ
第1編	第1章	研究第一主編	本村直	62	####	中川	####	済	H21.7.28	H21.8.6	済	H21.10.9	H21.10.20	H21.11.25	H21.12.2	
	第2章	門戸開放と実														
第2編	第1章	総長・学長選	小原直	30	####	高橋	####	済	H21.9.4	H21.9.14	済					
	第2章	大学の自治と	川合亮	18	####	佐藤	####	済	H21.5.23	H21.6.2	済	H21.10.26	H21.11.6	H21.11.27	H21.12.7	
	第3章	女性教職員の	吉田直	42	####	中川	####	済	H21.7.9	H21.7.22	済					
第3編	第1章	入試	石井才	64	####	高橋	####	済	H21.6.17	H21.6.30	済	H21.10.20	H21.11.4	H21.12.3	H21.12.7	
	第2章	一般教育の理	水原直	78	####	高橋	####	済	H21.9.9	H21.9.18	済					
第4編	第1章	学生生活	大島直	21	####	佐藤	####	済	H21.8.5	H21.8.17	済					
	第2章	帝国大学時代	柳原直	58	####	中川	####	済	H21.9.29	H21.10.8	済	H21.11.12	H21.11.20予	H21.12.3	H21.12.10	
	第3章	学生寮	浦川直	52	####	佐藤・中川		済	H21.11.20				H21.11.27	H21.12.2		
第5編	第1章	東北振興と東	伊藤才	39	####	佐藤	####	済	H21.6.24	H21.7.6	済					
	第2章	斎藤報恩会の	中島直	21	####	高橋	####	済	H21.11.6	H21.11.12	済					
	第3章	地域社会の中	川名直	14	####	佐藤	####	済	H21.5.23	H21.6.2	済	H21.11.6	H21.11.16	H21.12.3	H21.12.10	
	第4章	同窓会	小川直	20	####	佐藤	####	済	H21.9.10	H21.9.17	済					
第6編	第1章	戦前期におけ	田村直	36	####	佐藤	####	済	H21.4.28	H21.5.19	済					
	第2章	外国人留学生	佐藤直	24	####	佐藤	####	済	H21.9.16	H21.9.28	済	H21.10.26	H21.11.6	H21.12.8	H21.12.14	
	第3節	外国の大学選	高橋直	21	####	中川	####	済	H21.7.24	H21.8.6	済					

画像2 通史3進行表 (09.12.16)

付、編纂室に戻ってきた日付、再入稿した日付、などのスケジュールが記されている。

このような進行表が月ごとに更新されていくのを見ていくことによって、予定通りに進んだ部分やそうでない部分が確認できる。また場合によっては章タイトルや担当の変更が記されていることもあり、編集上の方針転換が発生した時期を見て取ることも可能である。こうした各チームの動向をスタッフ会議において共有することによって、全体のスケジュールを調整していったことがわかる。

さらにスタッフ会議資料から把握できるのは、編纂室内におけるマンパワーの配分である。編纂室では室員それぞれが担当業務を持っており、それは表1から表3の資料作成者からも部分的にうかがえる。ただし、そうした役割は固定されていたわけではなく状況に応じて変化していた。今回の資料に含まれている進行表や報告書を見ることで、誰がどの分野を担当していたか、どのタイミングで担当が変更したか、などを確認することができる。

当時は中川学講師、高橋禎雄助手のほか、執筆者を含む5人が教育研究支援者として在籍していた（いずれも当時の肩書）。その中で主に教育研究支援者たちが、複数のチームに所属したり、チームを移動したりすることによってマンパワーを調節していた。スタッフ会議資料からは、そうした状況をうかがうことができる³⁾。

画像3は、2008年1月18日の会議で配付された通史2「進行表」の一部である。そこには執筆者や頁数のほか、その年の1月以降の予定と、編纂室内の担当者が記されている。原稿の執筆者は巻末に名前が掲載されているが、担当した編纂室員については記されないことがほとんどである。こうした資料に目を通すことによって、アルバイトを含めて、仕事を分担していた実態を確認できる⁴⁾。

さらに、月ごとに進行表を続けて見ていくと、室員の担当が変化するほか、執筆者や頁数についても変化が起こっている場合がある。方針変更が発生した事情については、その前後の各報告書などにも記されていることが少なくないので、あわせて確認することで、より編纂作業の実情を把握できるであろう。そうした部分にこそ、なかなか表には出てこない本作りのエッセンスが記されていると思われる。

初校 → ①校 再校 → ②校 参校 → ③校

		2008年														
編	章	タイトル	執筆者	頁数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
第5編 高度成長期の 東北大学 (210)	第1章	科学技術振興と理工系学部の充実(拡充?)	吉田武義	30			吉業	吉業	回覧	①校	②校	③校				念校
	第2章	分校の統合と教養部の設置	佐藤透	30	本村	回覧	①校	②校	③校							念校
	第3章	教員養成課程の分離	佐々木公明	30	本村	本村	本村	本村	回覧	①校	②校	③校				念校
	第4章	青葉山移転	安田延壽	60-40	吉業	吉業	吉業	回覧	①校	②校	③校					念校
	第5章	歯学部設置	越後成志	20-30				伊藤	伊藤	伊藤	回覧	①校	②校	③校		念校
合計頁数					170											
第6編 大学紛争の 時代と大学 改革 (240)	新1章	大学改革への動き	佐藤勝則	30		伊藤	伊藤	伊藤	回覧	①校	②校	③校				念校
	第2章	大学立法と東北大学(大学立法と紛争?)	空井護	40-30		伊藤	回覧	①校	②校	③校						念校
	第3章	大学改革の展開	佐藤勝則	30		伊藤	伊藤	伊藤	回覧	①校	②校	③校				念校
	第4章	教養部封鎖と大量留年	小野善彦	40	伊藤	伊藤	回覧	①校	②校	③校						念校
	第5章	入学試験制度の改革	佐藤弘夫	30		布谷	布谷	回覧	①校	②校	③校					念校
	第6章	薬学部の設置	安斎順一	20	布谷	回覧	①校	②校	③校							念校
	第7章	医療技術短期大学部の併設	小原春雄	20	布谷	布谷	布谷	回覧	①校	②校	③校					念校
合計頁数					210											
第7編 大学院重点 化と将来構 想 (250)	第1章	教養部の廃止と全学教育体制の創設(構築?)	関内隆	30												念校
	第2章	研究所の改組・転換	高橋秀幸 斎藤文良	30				吉業	吉業	回覧	①校	②校	③校			念校
	第3章	研究センター等の新設	平川新	20		伊藤	回覧	①校	②校	③校						念校
	第4章	大学院の重点化←大学院重点化と将来構想	長谷部弘	30												念校
	第5章	法人化と将来構想←国立大学の法人化	宮藤英一	30-20												念校
	第6章	産学連携と国際交流	安達宏昭	30-20		伊藤	回覧	①校	②校	③校						念校
	第7章	キャンパス移転	安達宏昭	30-20		伊藤	回覧	①校	②校	③校						念校
合計頁数					200											
総頁数					580											

3月入稿見込み原稿
 未提出原稿

画像3 通史2進行表(2008年1月18日)

おわりに

ここまで、執筆者が保管していた東北大学百年史編纂室に関する資料の中で、スタッフ会議に関係する資料について述べてきた。

これらの資料から、編纂室の細かい動向や、スタッフ会議が果たしていた役割が読み取れることが確認できた。今後これらの資料は、編纂事業について検証する場合や、編纂事業を通して残された資料の性質について検討を加える場合に利用できると思われる。

今回の資料は、編纂室の内側で作成されたものとして貴重な記録ではあるが、執筆者個人の手元に残された資料でしかない。また編纂事業が10年以上に及んだことを考慮すると、最後の3年間における活動の一端を示すものに過ぎない。その全体像を確認するためには、前回の論考で紹介したスタッフ会議資料以外の資料や、大学に残された公的な資料にも目を通すなどして、総合的に把握する必要がある。

大学の歴史や大学の所蔵する歴史資料については、東北大学で百年史編纂事業を進めていた時期と比べても、学問的な関心が高まっているように見受けられる。今回の資料を、東北大学の歴史や大学史の時代的な特徴について検討を加える場合など、必要に応じて活用していただければ幸いである。

なお本論考で紹介した資料を含む、執筆者が保管していた東北大学百年史編纂室に関する資料全体を、2021年3月、東北大学史料館に寄贈した。その後、「東北大学百年史編纂室関係資料」という名称で管理され、目録データベースも公開されている。

付記

資料の寄贈などに際しては、東北大学史料館の加藤論准教授、曾根原理助教に大変お世話になりました。この場を借りて、あらためてお礼申し上げます。

注

- 1) 百年史編纂事業の経過、および執筆者と編纂事業との関わりについては、拙稿「東北大学百年史編纂室に関する個人資料の紹介」(『東北大学史料館研究報告』第16号、2021年)などを参照されたい。
- 2) 『東北大学百年史編纂室ニュース』は、東北大学史料館の web サイトで閲覧することが可能である。なおスタッフ会議について『東北大学百年史編纂室ニュース』の記録と比較すると、2007年9月14日の会議は『東北大学百年史編纂室ニュース』に記録されていないが、今回の資料には会議資料が含まれている。反対に同年10月9日の会議は『東北大学百年史編纂室ニュース』に記録されているが、今回の資料には会議資料が残されていない。どちらか片方のみが開催された可能性も考えられるが、執筆者が使用していたシステム手帳には9月14日、10月9日の両方に「スタッフ会議」「15:00～」と書き込まれているので、両日ともに開催された可能性も否定できない。

13 仏滅	14 大安 スタッフ会議 15:00～ 18:00～19:30 1G①521教室	15 12:00 4時
20 大安	21 赤口	22 11時

2007年9月のシステム手帳

8 大安 体育の日	9 赤口 15:00～ スタッフ会議
15 先勝	16 友引

2007年10月のシステム手帳

- 3) 教育研究支援者の人名については、スタッフ会議資料で確認できるほか、各巻末尾の関係者名簿に記されている。巻によっては、関わった部分の執筆者や分担者として教育研究支援者が紹介されている場合もあるが、そうでない場合も少なくない。
- 4) アルバイトの人名については、雇用される際などに①事務報告書に記されることが多い。ただ今回の資料は時期的な制約もあるので、雇用の時期によっては記されていないこともある。その場合、通史3の834頁に掲載されている「編纂協力者」などで、フルネームを確認することができる。

表1 スタッフ会議資料 (2007年度)

会議開催日	タイトル	日付	作成者
2007年5月16日	スタッフ会議		佐藤(正)
	月例スタッフ会議	2007.5.16	
2007年6月13日	スタッフ会議		佐藤(正)
	平成19年度 百年史編纂室予算執行状況総表		
	月例スタッフ会議	2007.6.13	
2007年7月11日	通史1 進行表 (2007.6)		
	スタッフ会議		佐藤(正)
	月例スタッフ会議	2007.7.11	
	通史1 進行表 (2007.6)		
	スタッフ会議 (2007年7月11日)		
	通史2 進行表		
2007年8月9日	管理運営検討委員会の経過		
	スタッフ会議		佐藤(正)
	月例スタッフ会議	2007.8.9	
	通史2 改変案	2007/8/9	
2007年9月14日	通史1 進行表 (2007.8.9)		
	スタッフ会議		佐藤(正)
	月例スタッフ会議	2007.9.14	
2007年11月26日	通史1 進行表 (2007.9.14)		
	通史2 進行表 (2007年9月14日)		
	スタッフ会議		佐藤(正)
	月例スタッフ会議	2007.11.26	
	助教授 教授 名誉教授		
	11月26日スタッフ会議用資料		佐藤健治
	月例スタッフ会議	平成19年11月26日	吉葉
	月例スタッフ会議		布谷
	5編2章:分校の統合と教養部の設置		本村
	第六編「大学紛争の時代と大学改革」の第一章から第四章	2007年11月26日	伊藤
	通史2リライト・点検分担表	2007/11/19	
2007年12月19日	通史3 章節構成案	11.26	
	執筆希望一覧		
	統計編用 作成図表一覧 11/5 現在		
	スタッフ会議		佐藤(正)
	月例スタッフ会議	2007.12.19	
	平成19年度 百年史編纂室予算執行状況総表		
	通史2リライト・点検分担表	2007/12/19	
	スタッフ会議 通史2 関係(全体)	2007.12.19	
	12月スタッフ会議	2007.12.19	
	校正などに関する審議事項	2007年12月19日	伊藤
	統計編メモ	2007/12/19	佐藤健治
	通史3 編纂方針・章節構成案	2007.12	
	2008年1月18日	スタッフ会議	
月例スタッフ会議		2008.1.18	
通史2 進行表 (2008年1月18日)			
通史2 スタッフ会議		平成20年1月18日	
1月スタッフ会議		2008.1.18	
校正に関する決定事項		2008年1月18日	伊藤
1月18日スタッフ会議用資料			
『東北大学百年史』通史3 編纂方針・章節構成案		2008.1	
2008年2月5日	平成19年度 第1回部会長会議	平成20年2月5日	
	百年史刊行計画(修正案)		
	百年史刊行計画	平成19年4月	
	通史2の進捗状況について		
	通史3構成案について		
2008年2月19日	資料3構成案について		
	スタッフ会議		佐藤(正)
	平成19年度 百年史編纂室予算執行状況(賃金、通史二、資料編三を除く)		
	月例スタッフ会議	2008.2.19	
	スタッフ会議(2月)	2008.2.19	
	通史2 進行表 (2008年2月19日)		
	通史2 執筆者氏名の表記について(案)	平成20年 月 日	高橋禎雄
	統計編メモ	2008/2/19	
	『東北大学百年史』通史3 編纂方針・章節構成案	2008.2	
	平成20年度 百年史編纂事業計画案		
2008年3月26日	百年史刊行計画	2008年2月19日	
	スタッフ会議		佐藤(正)
	月例スタッフ会議	2008.3.26	
	通史2 進行表 (2008年3月26日)		
	スタッフ会議(3月)	2008.3.26	
	統計編メモ	2008/3/26	
	統計編 進行表		
『東北大学百年史』通史3 編纂方針・章節構成・執筆分担			

表2 スタッフ会議資料 (2008年度)

会議開催日	タイトル	日付	作成者
2008年4月21日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2008.4.21	
	通史2進行表 (2008年4月21日)		
	スタッフ会議	平成20年4月21日	
	統計編メモ	2008/4/21	
	統計編 進行表		
	通史3進捗状況 編纂作業上の留意点などについて	2008.4.21 2008年4月21日	
2008年5月21日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2008.5.21	
	スタッフ会議	平成20年5月21日	
	通史2進行表 (2008年5月21日)		
	統計編メモ	2008/5/21	
2008年6月19日	通史2スタッフ会議	2008.6.19	高橋禎雄
	通史2スタッフ会議	平成20年6月19日	吉葉
	通史2・会議	2008年6月19日	本村
	通史2 スタッフ会議	2008/6/19	中野渡俊治
	通史2会議	2008年6月19日	伊藤
	通史2進行表 (2008年6月19日)		
2008年7月2日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2008.7.21	
	スタッフ会議 (通史2関連)	2008.7.2	
	通史2進行表 (2008年7月2日)		
	統計編 進行表		
2008年8月5日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2008.8.5	
	スタッフ会議 (通史2関連)	2008.8.5	
	通史2進行表 (2008年8月5日)		
	統計編 進行表		
	『東北大学百年史』第11巻「資料4」 『東北大学百年史』第11巻「資料4」構成案 (たたき台)	2008年8月5日	吉葉
2008年9月3日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2008.9.3	
	通史2・スタッフ作業報告 (8月6日～9月3日)		
	通史2進行表 (2008年9月3日)		
	統計編 進行表		
	資料4「画像資料編」表1 撮影対象とする年間行事 資料4「画像資料編」表2 画像資料編撮影対象物・風景		
2008年10月9日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2008.10.9	
	スタッフ会議 (通史2関連)	2008.10.9	
	『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2008年10月9日	吉葉
	統計編 進行表		
	通史2進行表 (2008年10月9日)		
2008年12月4日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2008.12.4	
	統計編 進行表		
	通史3 進行表		
	スタッフ会議資料 『東北大学百年史』第11巻「資料4」 〔資料4サンプル〕	2008年12月4日 2008/12/04	吉葉
2009年1月8日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.1.8	
	通史3 進行表		
	スタッフ会議資料 『東北大学百年史』第11巻「資料4」 笹氣出版印刷との打合せ備忘録	2009年1月8日 平成20年12月24日	吉葉
	スタッフ会議	2008.1.8	高橋 星
2009年2月4日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.2.4	
	スタッフ会議資料 『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年2月4日	吉葉
	通史3 進行表		
	資料2構成案 (2009年2月4日スタッフ会議資料) 〔資料4サンプル〕	2009/02/04	
2009年3月9日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.3.9	
	スタッフ会議資料 『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年3月9日	吉葉
	通史1進行表 (2007.10)		
	〔資料4サンプル〕	2009/03/05	
	通史3 進行表		
	通史3収録年表作成マニュアル 資料2進行表 (2009年3月9日 スタッフ会議資料) 資料2 (第2編)構成案 (2009年3月9日 スタッフ会議資料)	2009.3	
スタッフ会議	2009/03/09		

表3 スタッフ会議資料 (2009年度)

会議開催日	タイトル	日付	作成者
2009年4月13日	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.4.13	
	通史3 進行表	2009.4.13	
	通史3 年表サンプル案	09.4.13	
	スタッフ会議資料『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年4月13日	吉葉
	資料4 進行表		
	資料2 進行表 (2009年4月8日 スタッフ会議資料)		
	資料2 (第2編 東北大学の諸相) 構成案 (2009年4月8日 スタッフ会議資料)		
2009年5月11日	スタッフ会議	2009/04/08	
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.5.11	
	通史3 進行表		
	通史3の構成(修正案)	2009.5.11	
	年表案	2009.5.11	
	スタッフ会議資料『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年5月11日	吉葉
	資料4 進行表		
2009年6月8日	資料2 進行表 (2009年5月11日)		
	資料2 (第2編 東北大学の諸相) 構成案 (2009年5月11日 スタッフ会議資料)		
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.6.8	
	通史3 進行表 (09.06.08)		
	スタッフ会議資料『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年6月8日	吉葉
	資料4 進行表		
	資料2第3編「式辞・告辞」	2009/06/08	
2009年7月6日	資料2第2編 東北大学の諸相 (2009年6月8日 スタッフ会議資料)		
	資料2 進行表 (2009年6月8日)		
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.7.6	
	通史3 進行表 (09.07.06)		
	スタッフ会議資料『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年7月6日	吉葉
	資料4 進行表		
	【資料】二第三編 式辞・告辞リスト (スタッフ会議資料 2009.7.6)		
2009年8月21日	資料2第2編 東北大学の諸相 (2009年7月6日 スタッフ会議資料)		
	資料2 進行表 (2009年7月6日)		
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.8.21	
	通史3 進行表 (09.08.21)		
	スタッフ会議資料『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年8月21日	吉葉
	資料4 進行表		
	資料2 (2009年8月21日 スタッフ会議資料)		
2009年9月18日	資料2 進行表 (2009年8月21日)		
	【資料4 サンプル】		
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.9.18	
	通史3 進行表 (09.09.18)		
	スタッフ会議資料『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年9月18日	吉葉
	資料4 進行表		
	資料2 構成 (2009年9月18日 スタッフ会議資料)		
2009年10月21日	資料2 進行表 (2009年9月18日)		
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.10.21	
	通史3 進行表 (09.10.21)		
	スタッフ会議資料『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年10月21日	吉葉
	資料4 進行表		
	資料2 進行表 (2009年10月21日)		
	スタッフ会議		星
2009年11月18日	月例スタッフ会議	2009.11.18	
	スタッフ会議資料『東北大学百年史』第11巻「資料4」	2009年11月18日	吉葉
	通史3 進行表 (09.11.18)		
	資料2 進行表 (2009.11.18スタッフ会議)		
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2009.12.16	
	通史3 進行表 (09.12.16)		
	スタッフ会議資料『東北大学百年史編纂室ニュース』第15号	2009年12月18日	吉葉
2009年12月16日	資料2 進行表 (09.12.16)		
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2010.1.13	
	通史3 進行表 (2010.1.13)		
	スタッフ会議資料『百年史』第9巻「資料2」	2010年1月13日	
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2010.2.15	
	スタッフ会議 (2010年2月15日)		
2010年1月13日	借用資料返却作業 (2010年2月15日)		
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議	2010.3.17	
	スタッフ会議 (最終)		
	借用資料返却作業について (2010年3月17日 スタッフ会議)		
	スタッフ会議		星
	月例スタッフ会議		
	借用資料返却作業について (2010年3月17日 スタッフ会議)		